
言語統制、空を飛ぶ

ぬじゅわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言語統制、空を飛ぶ

【Zマーク】

Z6071M

【作者名】

ぬじやわきし

【あらすじ】

時は近未来かもしない。政府は国民全体に言語統制を命じていた。もし、誤つてその言葉を口にしてしまうと、世にも恐ろしい事態が起きた・・・

(書き)

はてしなく、シユールです。

朝、高校生の学は旦が覚めるとテレビを点け、ニコースを見た。朝にニコースを見るのは彼の日課である。いや、彼どころか国民の日課であった。国民は毎朝七時半のニコースを見なければならぬ。重要なお知らせがあるからだ。

そしてニコース。

「ニコースです。政府は本日午前八時より『青』『死ぬ』及びそれらの活用形の言葉を禁止する事を発表しました。」

学はタメ息をついた。また、言語統制。これでは話す言葉も少なくなるではないか。しかし、その愚痴を言うことはできなかつた。なぜなら『言語統制』も禁止ワードだつたからだ。もし、その禁を破つて話したらどうなるか。それを考へるだけで学はぞつとした。

その日学は友人たちとぶらぶら歩いていた。友人の健が話した。
「見た？今日のあのニコース。」

「うん。」

「今日はなかなかややこしいよね。」

もちろん、言語統制された『青』と『死ぬ』について語つてゐる
である。学はひたすら相づちをつつ。

「うん。」

一行は前を歩いた。太陽がぽかぽかと照つていて、空には雲ひとつない。

武が言った。

「晴れてるね。」

「確かに。」

「綺麗な空だね。」

「本当、雲ひとつないまつや…」

学は口くもつた。うつかり「真つ青」と言いそうになつたのだ。『青』は言つてはいけない…学は言い直した。

「まつや…まさに快晴だね。」

「う…うん。」

友人たちの間に密かな緊張が走つた。ちょっとした発言が命取り。言葉に注意しなければならなかつた。

しばらくして別の会話。

「そろいえばさあ、テスト明後日だよ。」

「明後日？」

「あ、勉強しわすれたー。」

「死んだー。」

はつ、と友人たちはその発言をした勇という青年を見た。勇も自分の失言に気づき、青ざめた。禁止ワードの『死ぬ』を言つてしまつた…友人らは勇から徐々に離れた。

次の瞬間、勇は地面から離れ、ものすごい勢いで空へ落ちていつた。「がああああああああああああああ……………・・・・。」

勇の姿は空の上に段々小さくなり見えなくなつていつた。しばしの沈黙の後、学らは勇を忘れて前を歩く事にした。

一行は大きな公園に着いた。太陽は照り、じりじりと学らを照りつけた。

「暑いね…」

「うん…先に避暑所とかないかな。」

一行はさらに前に進んだ。公園のくせにあまり木がないため、なかなか涼む場所が見当たらない。アブラザミがジイジイと鳴く。

「…暑い…」

「ほんと、暑い…」

「暑くて死にそ……がああああああああああああああああ……」

「涼む場所ないの？」

「やつあがだ。」

学が指差すと、かきごおり商店を発見した。屋根がある。とりあえず学らはかきごおりを買つて、と云ふ。

「アーリー、アーリー！」

「かういふ事はござりません。」

「ハリハリ、ビビリ、

「うそだよ、お前は」

「かじ」も「まし」だ

「では僕は久川リバ「アーヴィング」の事件を

を、言ふた途端、武の身体は屋根を破って空に落ちていった。

「俺はイチゴで、
かしこまりました。」

732

かきごおりを食べた後、一行は、公園を出た。六人いたのが今や三人しかいない。三人とも怖いので、もう喋らない事にした。

だが、おばあさんが通りかかり、三人に話しかけた。

「その若い方、駅までの場所を知りたいんだけど、どこかわかる

かねえ？」

三人は目配せし、やがて、純が代表して答える事にした。

「ここから、まっすぐ行って、右に曲がります。そしてまっすぐまっすぐ行って、洋服の青山の左いけば……す……ぐ……がああああああ

ああああああ

『書』山と書ってしまった純はおばあさんを残して空へ消えていった

「まあ、分かりましたよね？」

「ええ…まあ…はい…ありがと…」

学は健と話した。

「一人だけになつたね…」

「ほんと…」

「ねえ、『洋服の×山』はいまどんな名前なのかなあ…」

「さあ…『洋服の山』じゃね?」

「そんな…」

「ところで学、これからどうする?」

「さあ…一人しかいないし、四人とも飛んでいつたしね…」

その時健の顔が一気に青ざめた。学は気になつて尋ねた。

「どうしたんだよ?」

「お前…さつき…言つたよな…」

「え? あつ!」

学は察した。さつきの言葉…「四人とも飛んでいつたしね」…「飛んでいつたしね」…「飛んでいつた・死ね」

学は必死に叫んだ。

「違う違う…そんなつもりで言つたんじゃない! そんなつもりじゃ…」

…

その時、学の足が地面から離れるのを感じた。次の瞬間、学は猛烈な勢いで空へ落ちていった。

「がああああああああ…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6071m/>

言語統制、空を飛ぶ

2010年10月21日21時21分発行